

- 問1 マルコ・ポーロが見聞をまとめて出版し、日本を「黄金の国ジパング」として紹介したことで知られる著書を何という？
- 問2 元軍の再襲来に備えて鎌倉幕府が博多湾の沿岸に築いた、石造りの防壁を何という？
- 問3 モンゴル帝国が建国されたのは、日本ではどの時代にあたる？
- 問4 源頼朝の死後、将軍を補佐して幕府の実権を握った北条氏の役職を何という？
- 問5 承久の乱の後、反乱側の貴族や武士の領地に任命された幕府の役職を何という？
- 問6 承久の乱を起こし、鎌倉幕府を倒そうと試みた上皇は誰？
- 問7 1232年に日本初の武家法である『御成敗式目』を制定した、鎌倉幕府の第3代執権は誰？
- 問8 1281年にモンゴル帝国が二度目に日本へ襲来した戦いを何という？
- 問9 鎌倉時代、元軍による侵攻の際に、従来の武士の戦法である一騎打ちを行うことで苦戦を強いられた、当時の武士階級の呼び名を何という？
- 問10 承久の乱の後に、京都で朝廷の監視や西国の統治を行う六波羅探題を設置した人物は誰？
- 問11 後鳥羽上皇が幕府の倒幕を企てたが、幕府側が勝利し、朝廷に対する幕府の優位が確立した出来事が起こったのは何年？
- 問12 琵琶法師によって語り継がれた、平氏一族の栄枯盛衰を描いた軍記物語を何という？
- 問13 鎌倉幕府が、年貢の徴収や土地の管理、治安維持のために各地に置いた役職を何という？
- 問14 鎌倉時代に領地を複数の子に分けて引き継ぐ慣習を何という？
- 問15 『方丈記』において、乱世の出来事を通じて描かれた仏教的な思想を何という？
- 問16 鎌倉幕府が土地管理や年貢徴収を行わせるために、各所に配置した役職を何という？
- 問17 『平家物語』を琵琶を弾きながら語り歩き、物語を全国に広めた人を何という？
- 問18 十三世紀後半、モンゴル帝国から日本へ侵攻してきた軍隊を何という？
- 問19 鴨長明が著した『方丈記』のように、作者自身の見聞や感想などを自由な形式で書いた文章のジャンルを何という？
- 問20 鎌倉時代後期に、困窮して幕府の支配に抵抗するようになったかつての幕府の味方は誰？
- 問21 法然が開いた浄土宗が拠点とし、教えを広めた場所はどこ？
- 問22 鎌倉時代初期に焼失したあと、源平の戦いの後に再建された奈良にある有名な寺院を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 世界の記述（東方見聞録）	帰国後に獄中で語った内容が記録され、出版されたのが『世界の記述（東方見聞録）』です。この書物には、当時の中国の繁栄や日本の富について書かれており、ヨーロッパの人々にアジアへの関心を抱かせました。
問2	答え 防塁	幕府は北九州の御家人たちに命じ、博多湾の海岸沿いに石造りの長い防壁を築きました。これが「防塁」です。元軍の上陸を困難にさせる防御施設であり、当時の武士の軍事動員体制を示す重要な遺構です。
問3	答え 鎌倉時代	チンギス・ハンはモンゴル帝国を建国し、強力な騎馬軍団を率いて次々と周辺地域を征服しました。この動きは、後の鎌倉幕府がモンゴルの襲来（元寇）を受けるという歴史的な接点へとつながっていきます。
問4	答え 執権	執権は、はじめは將軍の補佐役として置かれていましたが、北条時政が初代となって以降、北条氏が世襲するようになりました。執権政治のもとでは、將軍は形式的な存在となり、北条氏が実質的な幕府の最高指導者として全国を政治を統括しました。
問5	答え 新地頭	幕府はこの没収した領地に「新地頭」を配置しました。これにより幕府は、それまで支配が届きにくかった西日本においても、武士を直接的に管理する体制を築きました。
問6	答え 後鳥羽上皇	1221年、後鳥羽上皇は全国の武士に対して北条義時を討つよう院宣（命令）を出しました。しかし、幕府軍の迅速な対応により朝廷側は敗北し、上皇は隠岐へ流されました。
問7	答え 北条泰時	北条泰時は、御家人の利益を守り、争いを解決するために「御成敗式目」を制定しました。これは武士社会の道理に基づいた最初の法律であり、裁判の公平性を担保する役割を担いました。
問8	答え 弘安の役	1281年、元軍は再び大軍を率いて九州へ攻め寄せました。これが弘安の役です。幕府は事前に築いていた防塁や備えによって防戦し、元軍の上陸を阻みました。また、暴風雨により元軍の船団が壊滅的な被害を受けたことで、幕府軍の勝利が確定しました。
問9	答え 御家人	彼らは平時の警備や戦時の戦闘を担う、幕府の軍事的基盤でした。元軍との戦いにおいては、少人数での一騎打ちを重んじるこれまでの戦い方とは異なり、集団で組織的に攻めてくる元軍に対して非常に苦戦を強いられました。
問10	答え 北条泰時	北条泰時は、北条義時の長男として活躍し、乱の直後に京都に六波羅探題を設置して政治基盤を固めました。また、武士の習慣に基づく日本初の武家法典『御成敗式目』を制定し、公平な裁判の実現に努めました。
問11	答え 1221年	1221年、後鳥羽上皇が北条義時追討の院宣を出して挙兵しました。これに対し、幕府は北条政子の演説などで御家人を団結させ、迅速に京都へ兵を進めて鎮圧しました。これを承久の乱といいます。
問12	答え 平家物語	『平家物語』は、平清盛をはじめとする平氏一族の栄華と、源氏との戦いによる滅亡を描いた作品です。「祇園精舎の鐘の声」という有名な一節にあるように、世の中の無常さを説く「無常観」が根底に流れています。
問13	答え 地頭	地頭は、荘園や公領において年貢の取りまとめや土地の管理を行いました。また、治安維持や裁判の補助を行う警察的な役割も担うようになり、次第に現地の武士として強い権力を持つようになりました。
問14	答え 分割相続	分割相続とは、武士の家督を継ぐ際に、所有する領地を子供たちで等しく分ける方法です。当初は家が維持できていましたが、相続を繰り返すたびに一人の持つ土地が小さくなり、生活が苦しくなる武士が増えました。これが御家人の困窮を招き、幕府の権威が低下する一因となりました。
問15	答え 無常観	無常観とは、この世のすべての存在は常に変化し、永遠に続くものはないという仏教の教えです。鴨長明は『方丈記』の中で、京都の大火や地震などの惨禍を描き出し、人間の力ではどうしようもない儚さを無常観として表現しました。
問16	答え 地頭	地頭は、荘園や公領において土地の管理、犯罪者の取り締まり、そして年貢の徴収を行うために配置されました。これにより、幕府は全国の武士を統制する強力なネットワークを得ました。
問17	答え 琵琶法師	琵琶法師は、琵琶の音色に合わせて、平氏の栄華と滅亡をドラマチックに語り伝えました。彼らが語る物語は、合戦の様子や英雄たちの活躍を生生きと描き出したため、武士だけでなく、一般の民衆の間でも熱狂的に受け入れられました。
問18	答え 元軍	元軍は、モンゴル人を中心に、支配下の漢人や高麗人などを加えた巨大な連合軍でした。火薬を使った「てつほう」などの兵器を使い、集団で組織的に戦う戦法をとったため、個人の武勇を競う当時の武士たちを苦しめました。
問19	答え 随筆	随筆は、特定の形式にとらわれず、著者が感じたことを素直に綴る形式です。鴨長明の『方丈記』は、社会の無常を独自の視点で捉えた傑作として、中世文学の代表とされています。
問20	答え 御家人	経済的に追い詰められた御家人は、借金を重ねるなどして没落していきました。その結果、一部の御家人は荘園領主の土地を奪ったり、幕府の命令を無視して年貢の徴収を妨害したりする「悪党」となりました。この存在は、鎌倉幕府の支配体制が全国的に崩壊しつつあることを象徴しています。
問21	答え 吉水	吉水は法然の住居があった場所であり、ここを中心に念仏の教えが貴族や民衆にまで広く伝わっていきました。当時の仏教界は厳しい戒律や修行が主流でしたが、法然はここを拠点として、誰もが実践できる「専修念仏」を説き続けました。
問22	答え 東大寺	鎌倉幕府の協力のもと、重源という僧が中心となり、東大寺の再建が進められました。全国から寄付を募り、当時の最高の仏師たちによって多くの仏像が新造されました。南大門の金剛力士像はその象徴として制作されたものです。